

鬱(不安)状態からの社会復帰のために

中醫クリニック・コタカ 小高修司

近年うつ病、うつ状態、不安症候群などを罹患する患者が増加していることは周知である。一般に抗うつ剤や抗不安薬が用いられるのだが、病態は多少安定するものの、社会復帰まで到ることが少なく社会問題となっている。

中国医学的にその理由を考えれば、うつや不安の背景には気滞と共に、心肝の気血不足や胆怯などが有るにかかわらず、気血を増やす治療が行われていないからであろう。

祝味菊老師の基本処方の方意に酸棗仁湯を含み、種々のうつ・不安状態に短期間で効果を上げることが可能である。以下に症例を呈示する。

症例1 64歳 男 181cm 70Kg 初診 2008-9-19 上場会社取締役専務

主訴：うつ状態、頭重、高血圧、嗝声、鼻閉

家族歴：母が脳卒中、兄弟も皆高血圧。

現病歴：40才頃より高血圧、以後降圧剤服用中。2007-1月末よりうつ状態になり一ヶ月間休職。抗うつ剤服用で緩解。2008-5月に再発。抗うつ剤服用しながら時々出社。2008-9-10頃より血圧上昇し頭重増悪。翌日より休職。血圧 160-70/100-110。TG 307, T.chol. 183, LDL 97, HbA1c 5.7 (2008-4には6.0)、CTで内臓脂肪多い。動脈硬化も指摘されている。

現症：肉食多い。ワイン3杯、タバコ10本/日、大便1回、やや軟。夜間尿無し。多夢、情緒不安定。精神的ストレスが溜まっている。肩こり。暑がりや冷え性。自汗多い。異常に疲れる。決断力低下。頭がボーとして考えがまとまらない。腹脹。食欲過多。よくカゼを引く。

| 脈診 | 寸脈 | 関脈 | 尺脈 |
|----|-------|-----|------|
| 左 | 滑 重按微 | 滑有力 | 沈滑、長 |
| 右 | 滑 重按細 | 滑有力 | 沈滑、長 |

舌診 舌質やや紅暗胖大 舌苔白膩帶黄 舌裏の静脈の怒張有り

腹診 胃気痞塞、肺気痞塞は胸下部、宣散不良。

指甲診 左右共に1-2本。 下肢浮腫有り

辨証 痰濁血瘀、肝陽上亢、虚陽上浮

処方：(1) 牡蛎 30g、磁石 30g、炒酸棗仁 24g、茯神 15g、炮附子 6g、天花粉 9g、姜半夏 9g、夏枯草 9g、枳実 6g、蒼・白朮(各)9g、沢瀉 18g、小茴香 6g、三稜・莪朮・川牛膝(各)9g、蟬退 4.5g、炒甘草 4.5g 3x14T

(2) 田七末 3g 2x14T

(3) 酒大黃末、修治附子末、甘草末(各)0.5g 1x14T

【処方解説】 牡蛎、磁石、炒酸棗仁、茯神、炮附子の組み合わせは祝味菊老師に倣ったもので、不安を背景とする症例に頻用する。半夏+夏枯草の組み合わせは、本シリーズの初回に記述した(1)のように、陰陽交通により不眠治療などを行う。沢瀉 18g +小茴香 6g

は痰濁阻竅による眩暈への基本処方。三稜+莪朮+川牛膝は瘀血による拡張期血圧を下げるのに有効。蟬退は頑固な不眠に有効と朱良春老師の教え。

10-6(第2診)うつ状態を含め体調徐々に改善するも、血圧未だ高め。

処方：(1)石決明 30g、磁石 30g、炒酸棗仁 24g、茯神 15g、川芎 15g、烏頭 1g、炮附子 3g、姜半夏 9g、陳皮 3g、葛根 15g、天麻 6g、釣藤鈎 12g・薄荷 3g(後下)、決明子 15g、炒甘草 4.5g
3x15T

(2)田七末 3g
2x15T

【処方解説】天麻鈎藤飲加減でもある。烏頭は炮附子換算で 5g と考えるので、ここは総量炮附子 8g。石決明+草決明(決明子)は肝が絡む高血圧への常用配薬。姜半夏+陳皮+茯神で二陳湯の方意も含む。

10-20(電話再診、第3診)血圧は朝 150 代/90 代、晩 130 代/80 前後と安定。精神状態非常に改善。来週より入社する予定。

処方：同前、但し烏頭 1.5g に増量。

11-13(電話連絡)うつや不安状態無くなり、元気に毎日出社している。

症例2 24歳 女 154cm 46Kg 初診 2008-2-23 大学院修士課程学生

主訴：うつ状態(倦怠感、疲れやすい、イライラ、不安、元気ない、決断力不足)

現病歴：1年前に日本美術史関連の修士論文作成に失敗。'07-3月に5年間の独居生活を止め、自宅に帰る。一昨日、心療内科受診し服薬開始(トレドミン、セパゾン、レンドルミン)。

現症：牛乳、コーヒーなどで水分 600cc 以上。大便是硬軟交互。飲酒・喫煙は無し。月経はほぼ正常。

| | | | |
|----|----|-----|-------|
| 脈診 | 寸脈 | 関脈 | 尺脈 |
| 右 | 滑 | 滑 | 沈細滑 |
| 左 | 細滑 | 沈滑細 | 沈細滑、長 |

舌診 舌質暗 舌苔白膩 舌裏の静脈の怒張有り

腹診 胃脘部圧痛、胃気痞塞、肺気痞塞は胸下部、宣散不良。側腹部の圧痛有り、

指甲診 左右共に 1-3 本(小)。 下肢浮腫有り

辨証 痰濁気滞、寒凝血瘀、虚陽上浮

方剤：柴胡桂枝乾姜湯加味方、加炮附子 4.5g 3x14T

3-11(第2診)大便やや爽快。

| | | | |
|----|-------|--------|-------|
| 脈診 | 寸脈 | 関脈 | 尺脈 |
| 右 | 滑 | 滑 | 沈細滑、長 |
| 左 | 滑 重按微 | 滑細 重按細 | 沈滑細、長 |

舌診 舌質暗紅 舌苔白膩、前少 舌裏の静脈の怒張有り

方剤：柴胡桂枝乾姜湯加味方

処方：牡蛎 15g、葛根 15g、桂皮 4.5g、柴胡 12g、醋黄芩 9g、半夏 9g、乾生姜 6g、枳実 6g、蒼・白朮(各)9g、麻黄 4.5g、烏頭 1g 炮附子 3g、夏枯草 9g、炒甘草 4.5g 3x14T

4-7(第3診)体調少し良い。大便ほぼ毎日。

| | | | |
|----|----|----|----|
| 脈診 | 寸脈 | 関脈 | 尺脈 |
|----|----|----|----|

右 滑 滑 沈滑細、長

左 滑細 重按細 滑 滑細、長

舌診 舌質淡暗 舌苔薄白膩 舌裏の静脈の怒張有り

方剂：二仙湯加減の方意を含む。

処方：竜骨 30g、磁石 30g、党参 15g、黄耆 24g、当帰 9g、炮附子 6g、巴戟天 15g、仙茅 9g、干地黄 15g、通関散(各)4.5g、炒麦芽 12g、炒甘草 4.5g 3x14T

4-26(第4診)大便爽快。4-8日より新学期が始まり疲れた。

脈診 寸脈 関脈 尺脈

右 滑 滑 沈滑細、長

左 滑 滑 滑、長

舌診 舌質暗 舌苔白膩 舌裏の静脈の怒張有り

処方：竜骨 30g、磁石 30g、炮附子 6g、巴戟天 15g、干地黄 15g、山茱萸・山萸肉(各)15g、炒酸棗仁 24g、茯神 15g、党参 15g、黄耆 15g、決明子 15g、炒麦芽 12g、炒甘草 4.5g

3x14T

【処方解説】山茱萸+山萸肉とは、種有りの山茱萸に種抜き山萸肉を組み合わせたもので、李可老師の勧める山萸肉 30g 以上の用法に基づく。老師によれば「およそ人の元気の脱するは、皆その脱は肝に在り。故に人の虚極まるれば、肝風必ず先ず動く。肝風動くは元氣脱せんとする兆しなり。張錫純は山萸肉の救脱の功は人参、朮、黄耆より勝る。山萸肉の性は、ただ補肝のみでなく、およそ人の陰陽氣血がまさに散ぜんとするを能く斂める。故に山萸肉は救脱第一の要薬である、と説く」(2)。私は種有り山茱萸が本来の薬効を持つと考えており(3)、日常用いているが、ここでは両者を混ぜて用いた。

巴戟天は『神農本草経』に「中を補い、志を増し、氣を益す」とあり、更に『千金翼方』(孫思邈、659-681年の間)に「大風の邪氣、陰痿起たずを主り、筋骨を強くし、五臓を安んじ、補中、増志、益氣」とあるように「増志」の要薬である。志とは『素問』宣明五氣篇第二十三の「心は神を藏し、肺は魄を藏し、肝は魂を藏し、脾は意を藏し、腎は志を藏す。是は五藏藏する所と謂う」に有るように腎との関係が言われており、『靈樞』本神第八には「腎盛んに怒りて止まざれば、則ち志を傷る。志傷れば則ち其の前言を喜^よく忘れ、腰脊可ならず以て俛仰屈伸す。…腎は精を藏し、精は志を舍す。腎氣虚すれば則ち厥し、實すれば則ち脹す。五藏安らかならず。」とある。また同じく『素問』評熱病論篇第三十三には「狂言する者は是 志を失す。志を失せし者は死す」や、逆調論篇第三十四の「人身と志は相有さざれば、曰く死」のようにその重要性が論じられている。

5-30(第6診)研究がまとまらずイライラ。食欲不振。嗜眠。

脈診 寸脈 関脈 尺脈

右 滑細 滑細 沈細(滑)

左 滑細 短 沈細滑 沈滑細、長

舌診 舌質暗 舌苔白膩 舌裏の静脈の怒張有り

処方：竜骨 30g、牡蛎 30g、烏頭 1g、炮附子 3g、酸棗肉 24g、茯神 15g、川芎 9g、山茱萸・山萸肉(各)15g、山薬 30g、決明子 15g、炒麦芽 12g、炒甘草 4.5g 3x14T

【処方解説】本シリーズの第2回(4)でも触れたが、山薬 30g は温碧泉老師の用法で、多

量の辛熱薬に対応する和胃益肺の滋陰薬である。嗜眠のため酸棗仁湯の中で炒酸棗仁の替わりに酸棗肉を用いた。生酸棗仁を嗜眠に用いるとする説は誤りである (5)。

以後、同様な処方にて治療し、現在は不安もうつ状態もなく元気である。最終診の処方は以下の通り。

'08-10-11 (第 11 診) 元気。9 月の論文締め切りに提出できた。

| 脈診 | 寸脈 | 関脈 | 尺脈 |
|----|----|----|------|
| 右 | 滑 | 滑 | 滑細、長 |
| 左 | 滑 | 滑 | 滑、長 |

舌診 舌質淡嫩暗 舌苔白膩 舌裏の静脈の怒張有り

処方：竜骨 30g、磁石 30g、烏頭 2g、炮附子 3g、炒酸棗仁 24g、茯神 15g、川芎 9g、山茱萸・山萸肉(各)15g、山薬 30g、丹参 15g、決明子 15g、炒甘草 4.5g 3x28T

【文献及び注】

- 1、小高修司：難治の眩暈への新しい対処法、中医臨床 29(2) 202-206,2008
- 2、李可老中医急危重症疑難病經驗專輯 pp.3-5、山西科学技術出版社、2007、山西
- 3、小高修司：八味丸と六味丸の方意を歴史的に考える、漢方の臨床 52(5) 777-784,2005
- 4、小高修司：呉茱萸の運用、中医臨床 29(3) 377-381,2008
- 5、小高修司：不安・易驚に対し酸棗仁(湯)、漢方の臨床 48(4) 523-528,2001